

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670201088
法人名	医療法人 卓翔会
事業所名	グループホーム 遊雅の郷
訪問調査日	平成21年12月4日
評価確定日	平成22年1月4日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670201088
法人名	医療法人 卓翔会
事業所名	グループホーム 遊雅の郷
所在地	薩摩川内市入来町浦之名786番地 (電 話) 0996-21-4500
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年12月4日

【情報提供票より】(平成21年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 15人

(2)建物概要

建物構造	木 造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	9 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	市比野記念病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景が広がる中、福祉施設や消防施設に近接して建てられた、落ち着いた個性のある佇まいのホームである。入居者は自由な雰囲気のもとで、それぞれに思い思いの活動を楽しんでいる。職員は、日々のケアに当たるだけでなく、定期的な学習機会を持ち、知識・技術の修練に努めている。母体法人グループの充実した医療・福祉体制の支援も得ながら、入居者およびご家族の安心の為に職員一丸となって取り組んでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、特段の指摘事項はなかったものの、自己評価を基にサービスの質向上に継続的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日頃のケアを振り返る機会と捉え、職員全員で取り組んでいる。担当項目の評価に対して他者評価をもらい、考え方の違いを理解して事業所評価とした上で、改善へ向けた取り組みに活かされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、ホーム側からの現状報告に対し、入居者、ご家族、地域住民、行政、法人それぞれの代表者がそれぞれの立場で意見を出し合い、ホームの運営に活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの入り口に意見箱を設置し、面会や家族会の際には、積極的に職員の方からご家族に対して意見を求めるように努めている。ご家族からの意見を基に、ホーム行事に取り入れたケースもある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で行われる防災会議や文化祭に参加している他、ホームの夏祭り等には民生委員をはじめ大勢の方々を招いて相互交流が行われている。地域における認知症ケアの相談拠点としての役割も求められている。

2. 評価結果詳細

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中で自分らしく過ごしていただけるように、職員全員で理念の見直しを行い、地域をより意識した取り組みを行うように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については入職時のオリエンテーションに始まり、日々の唱和、毎月の職員会議における理念をベースとした話し合いが行われるなど、職員同士の思いを共有しながらケアの向上に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる防災会議や文化祭に参加している他、ホームの夏祭り等には民生委員をはじめ大勢の方々を招いて相互交流が行われている。地域における認知症ケアの相談拠点としての役割も求められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を日頃のケアを振り返る機会と捉え、職員全員で取り組んでいる。担当項目の評価に対して他者評価をもらい、考え方の違いを理解して事業所評価とした上で、改善へ向けた取り組みに活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、ホーム側からの現状報告に対し、入居者、ご家族、地域住民、行政、法人それぞれの代表者がそれぞれの立場で意見を出し合い、ホームの運営に活用している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、市担当者にホームの行事に立ち寄ってもらう機会をつくり、ホームの抱える困難事例等について話し合う機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に対しては、毎月担当職員より日常生活について報告書を郵送している。年3回はホーム便りも発行し、各種の活動、行事、職員の異動等について報告している。体調の変化等、急を要する場合は、電話・FAXを活用して迅速な対応が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を設置し、面会や家族会の際には、積極的に職員の方からご家族に対して意見を求めるように努めている。ご家族からの意見を基に、ホーム行事に取り入れたケースもある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、異動も最小限に止められていることで、なじみの職員によるケアが実践されている。新たな職員が入職する場合も十分な引き継ぎ期間を設け、入居者へのダメージを少なくするように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修および法人内研修について年間計画が作成されており、毎月様々な研修を受講できる体制が整っている。管理者は、個々の職員に対して、資格取得やキャリアアップに向けた外部研修受講を促し、勤務調整による配慮を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の福祉事業者連絡協議会や医師会の福祉事業者連絡会への参加の他、法人内の地域密着型サービス事業所との勉強会の開催等、同業者との交流によるサービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームの説明を含めて見学した上で、納得して入居していただくように努めている。入居後も、職員による積極的な声かけに加え、ご家族や友人の頻回な面会を受入れるなどして、徐々になじめるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者より昔の話や歌を教わりながら、同じ時間を楽しんだり、料理や菜園づくりを一緒に行うなど、ともに支え合う関係づくりに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりを通して、入居者の思いを把握するように努めている。把握できた意向や思いは介護記録に記載するとともに、申し送り等を通じて職員全員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者およびご家族にアセスメントを実施する他、日常の関わりから引き出される思いや意向が介護計画に反映されるように、職員間の話し合いを経て作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングが実施され、3ヶ月毎に介護計画の見直しが行われている。入居者およびご家族の意向の変化、病状の変化による見直しの必要性がある場合は、その都度プランの変更を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、訪問看護師による毎週の健康管理が行われている。必要時には通院支援も行っており、事業所内で完結できない場合でも、法人全体や地域の資源・機能を活かして柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のこれまでのかかりつけ医を尊重し、それぞれのかかりつけ医との連携を図るべく、受診に同行して病状の確認や対応についての助言を受けるように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、看取りの体制について説明を行っている。その後も状態に応じて、かかりつけ医や入居者およびご家族と方針の共有に向けて話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の関わりの中での言葉づかいに充分配慮しており、排泄介助等の際には、さりげない支援を行うように努めている。個人情報の取扱いについては、研修を通じて教育を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやパターンを大切にしたい関わりを考え、入居者の希望が聞かれた場合には、タイミングを見計らい、すぐに対応するように心掛けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けには役割分担ができており、入居者それぞれに参加されている。嗜好調査も実施されており、好みに応じた季節の食材を取り入れてメニューをつくり、全員で楽しく食事できるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴できる体制をとり、その時々に応じて柔軟な介助を行っている。入浴拒否のある方に対しては、声かけに工夫したり、場合によってはシャワー浴や清拭へ変更して実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりについて、どのようなことに興味があるのか、好まれるのかを知り、生活の場面に自然と活かせるような場面づくりがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩コースやテラス、中庭等、自由に出入りできる雰囲気があり、屋内に留まらず自由に行き来できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口は開放されて自由な空間となっており、職員もさりげなく見守りを行っている。出かけた意図のある方には、納得が行くまで職員が付き添った上で、一緒にホームへ戻るように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的な防災訓練の実施や地域の防災会議への出席、近隣住民への協力依頼等、万一来た場合に備えた体制を整えている。また非常食の準備も整え、大規模災害も想定した備えを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎食確認して、健康状態の把握を行っている。好みや健康状態に応じた代替食も提供しており、十分なカロリーを摂取できるように支援している。献立内容については、法人の栄養士より助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放的なキッチンやリビングに、落ち着いた装飾品が設えられている。トイレや浴室、キッチンなどは、入居者に配慮した使用しやすい造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用されていた家具や思い出の品が持ち込まれている。また、壁の装飾には入居者の思いが反映されており、個性的で居心地の良い空間となっている。		